Archival Modernism

Noto Serif JP

未来へつなぐ「記憶」の技術

文化のデジタルアーカイブ：定義から実践的手法まで

Based on Lecture 6 by Mayumi Kato (Gifu Women's University)

NotebookLM

なぜ、いま「文化」を記録するのか？

社会的集合記録

Archival Modernism

- 文化は時代とともに消滅し、環境やライフスタイルの変化によって変容する。
- デジタルアーカイブとは、単なるデータ保存ではない。
- コミュニティ内外で共有し、「今」を生きる私たちが利活用するための基盤である。

→ 変容してしまう前に「今の姿」を記録することで、後世への伝承と新たな文化創造が可能になる。

NotebookLM

「文化」の正体：芸術から生活様式まで

辞書の定義

言語・習俗・宗教など、社会集団が共有する生活様式式の総体。

安澤秀一氏（文化情報学）

「人間が理想を実現していくための精神活動及びその成果」。人間活動の所産としての「文化情報」。

文化芸術振興基本法

国の制度や政策における定義。

「文化とは、社会を構成するわたしたちがそれぞれのコミュニティで暮らしていくための活動の中で生み出されたものごとやことがらである」

NotebookLM

コミュニティで共有すべき「財産」

- 文化資源：文化はコミュニティに関わる重要な資源。
- 共有と継承：それぞれのコミュニティで習得・共有・伝達されるもの。

人は複数のコミュニティに関わりながら、多様な価値観の中で生きている。デジタル化により、この「共有」が以前より容易になった。

NotebookLM

デジタルアーカイブの4つのプロセス

1. 記録と整理

調査、収集、デジタル化

2. 保存と管理

メタデータ付与、
データベース化

3. 発信と伝達

コンテンツ公開、連携

4. 評価と改善

利用者アンケート、改善

NotebookLM

撮影前の準備：品質を決める「段取り」

下調べ (Research):
信頼できる複数の情報源

機材選定 (Equipment):
資料の特徴に合わせる

権利処理 (Rights):
事前の許可

関連資料 (Context):
周辺資料もリストアップ

記録用紙 (Logging):
内容を文書化

NotebookLM

記録手法Ⅰ：詳細と質感を捉える（静的記録）

② 接写撮影 / スキャナ

資料を平面的（真上）から記録。全体像または一部の拡大。

⑤ ライティング

照明の位置・角度・強さを調整。ハイライトや影を軽減し、質感を正確に。

④ 回転台を使った撮影

被写体を回転させ、一定角度ごとに撮影。多視点からの記録。

NotebookLM

記録手法 II：形状と全体像を捉える（空間的記録）

③ 長尺物の撮影

分割撮影し、画像処理で結合（スティッチ）。歪みなく詳細を記録。

⑥ 天井カメラ

真上からフォーカス。大きな資料や、手元の作業風景の記録に有効。

⑦ 多地点同時撮影

様々な位置・角度から撮影し、死角（情報が抜け落ちる部分）をなくす。

NotebookLM

記録手法 III：文脈と臨場感を捉える（動的・広域記録）

① ポートレート

照明・背景・方向を工夫し、表情から「人柄」まで記録する。

⑧ 360度パノラマ撮影

魚眼レンズや専用カメラを使用。天井から足元まで、空間全体を1ショットで記録。

⑨ 航空撮影記録

地形や建造物の位置関係を空撮。フライトレコードを必ず残す。

【重要】航空法による規制：**空港周辺、150m以上上空、人口集中地区、夜間**等は**原則飛行禁止**。国土交通省への許可申請が必要。

NotebookLM

記録における3つの重要視点

1. 変化を記録する

四季の変化、経年変化、温暖化の影響など、「移ろい」そのものを記録する。

2. 関連資料も記録する

本資料の周辺にある資料も記録することで、多角的な「真相」に迫る。

3. 人々の思いを記録する

活動の背景にある、伝承してきた人々の「気持ち」や「証言」を残す。

NotebookLM

文化は「人」が創る：想いの継承

「文化活動のみ記録するのではなく、活動の背景に存在する、それらを伝達・継承してきた『人々の気持ちや思い』なども記録します。」

- 関係者・専門家・当事者へのインタビュー。
- 証言を記録することで、伝承の「意味」や「目的」が未来へ伝わる。

NotebookLM

記録は「未来の創造」への贈り物

デジタルアーカイブ構築の目的は、単に保存することではない。
過去と現在の記録から、未来の文化を創造することにある。
一つ一つの作業が、この大きな目的に繋がっている。

NotebookLM

課題：あなたの身近な「文化」を記録する

以下の2点について考え、記述してください。

1. 対象の選定：身近な「文化」をひとつ挙げてください。
2. 手法の提案：その文化に対し、今回学んだ具体的な記録方法（①～⑨）から適切なものを選び、なぜその方法が適しているか特性を説明してください。

NotebookLM

参考文献・出典

- 加藤 真由美（岐阜女子大学）著『第６講 文化はどのように記録するの？』
- 安澤秀一・原田三朗 編『文化情報学 人類の共同記憶を伝える』（北樹出版, 2002）
- 文化庁「文化芸術の振興に関する基本的な方針」
- weblio 辞書『三省堂大辞林』

This presentation is a summary outline based on the lecture materials provided for educational purposes.

NotebookLM